

オホーツクの風

令和4年6月29日(水) 0027号

発行所

北見赤十字病院の
明日を考え支援する会

事務局

北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

闘いは続く 治療・看護

北見赤十字病院 感染症病床

コロナ医療

令和2年2月、北見で初めて、新型コロナウイルス感染症を確認。その後、展示会のクラスターに発展し、感染者は22人に達した。北見赤十字病院は直ちに対策本部を立ち上げ、感染者の最初の受け入れが行われ、未知の感染症との闘いが始まった。その体制は今日も続く。

新型コロナウイルス感染症の記事をまとめた、今回、北見赤十字病院の皆さんと懇談した。

病院からは、院長・荒川穰二さん、感染管理室副室長・松澤由香里さん、北7階病棟看護係長・恵美真由美さん、総務課長・鈴木真一さん、そして当会から代表・逢坂信治、副代表・谷川勝男が参加して、5月10日午後3時から応接室で行った。

逢坂：私が進行を担当します、宜しくお願いします。新型コロナウイルス感染症の発生した当時について荒川院長からお話

最初の受け入れ

院長：2年前の2月21日、最初の患者さんが入院しました。その方が重症化して、人工呼吸器とかが必要になりました。

当時はICU全部がコロナ患者さんの病床になって、残念ながらそれ以外の重症患者さんを受け入れることが出来なかった。

そのため、コロナ以外の重症患者さんを旭川の病院へ搬送するなど、なかなか苦勞した時期がありました。

体制のあらまし

逢坂：最初の受け入れから大分時間が経っています。新型コロナウイルスへの感染管理体制も進化していると考えま

す。現状をお話し願います。

院長：ICUをコロナ専用で治療を行っていました。一部を陰圧空間にする改造工事を一昨年の11月に行いまし



この患者さんにおき、人工呼吸器を必要とする患者さんには、人工呼吸器を使用し、酸素を取り出す。画像の出所：日本集中治療医学会 HP



ECMO(エクモ) 重症呼吸不全、または重症心不全の患者に使用される、生命維持のための装置です。ポンプにより血液を取り出して、肺の代わりに酸素と二酸化炭素の交換をおこない、血液を体に戻すことで呼吸の補助をします。画像の出所：shutterstockの画像を編集

1)太ももの静脈に管を挿入し、血液を取り出す。
2)首の静脈に挿入した管から人口肺によって酸素化された血液を送る。



陰圧病床

た。

陰圧室は気圧が低いのでこの空間からコロナウイルスが他の空間に拡散することとはなく、人工呼吸器やエクモでの治療が充分に出来るようになりました。

オホーツク圏では今の処、新型コロナウイルス感染症の重症者を受け入れが出来るのは当院だけと考えています。

闘いは困難の連続

逢坂：相当重症な方も受け入れてご苦勞なさったと思うんですけれど、その辺のことを差支えがな

い範囲でお聞かせ下さい。

院長：そういう意味で大変だったのは、北海道で初めて、新型コロナウイルスクラスターが確認された、総合卸センタークラスターです。

最初の発生から3月上旬までに十数名の新型コロナウイルス感染症の患者さんを受け入れました。

あの時、当院で受け入れた方もいましたが、網走厚生病院や遠軽厚生病院にお願いした患者さんもありますし、後に重症化が考えられる患者(2面につづく)

日本赤十字社の感染症の治療と予防の歴史

世界の感染症

735-737

天然痘が日本で大流行
・東大寺の大仏は鎮静を願って建立された

1918-19

スペイン風邪が世界的に大流行

2002-03

SARSがアジアを中心に広がる(注1)

2009

新型インフルエンザが広がる

2012

MERSが広がる(注2)

2014-16

エボラ出血熱がアジアから広がる

2015-

MERSが再び広がる

2019-

新型コロナウイルス感染症が拡散中

日本赤十字社の感染症の治療と予防

1877

西南戦争でのコレラ予防▶①

1911

結核撲滅事業の本格化▶②

1921

ポーランド孤児救護での腸チフスの治療▶③

1923

関東大震災での感染症対策▶④

1941-45

戦時下での感染症との闘い▶⑤

1983

たすけあいのところで海外の感染症対策を支援
・1983(昭和58)年、日赤はNHKと共催で第1回「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施。全国規模の募金活動による画期的な国際支援に踏み出した。毎年継続して現在に至る。



①西南戦争でのコレラ予防(佐野常民の電報)

信との空達の西始十博
し現清氣に資南者字愛
た地潔の奔金戦・社社
にに清走や争佐母(現
電注浄。物で野体(現
報意、ま資救常)日
を!衣たの護民の本
一服一調へは創赤



②大阪支部病院結核療養病棟

展の時ま全結運本明日
し赤のた国核動格治赤
た十結伊各専にの4は
。字核達地門取な41
病病ににのり結~9
院院も開病組核年1
にが。設院ん撰か1
発今当。をだ滅らへ



③食堂でのポーランド孤児(絵葉書)

ドに取り孤り寒ドをロ
に全容を見残のの失シ
婦員。日二さ子つア
国がそ赤千れば供た革
した。ボしが三たりたボ命
。ラ無本人そにがラ
ン事で余の取極ン親



④焼跡に臨時病院を設置

る千五東時患なをは関
こ三百京伝者く開5東
と百人府染を二設1大
が人。下病救百しケ震
出余腸で院護万。所災
来りチ赤を。人昼の時、
た。フ痢開ま余夜救
にフス二設たりの護日
め三千し臨の別所赤



⑤従軍看護婦の追悼記

明中収のま療伝失外先
けで容伝たと染つにの
暮れ治、病揚防棟人感争
た療播室けをを々染で
。とれにの行設が症
介る患病つけいで戦
護胎者院た、た命傷
にのを船。治がを以

紀元前の古代ギリシャ時代、医学者ヒポクラテスが著した書には、感染症と思われる記述があります。当時は風土病だと考えられていました。人類は昔から感染症に苦しめられ、特に戦争や災害においては、感染症が直接の死因となる事例が多いことが歴史的に証明されています。

天然痘、ペスト、麻しん、腸チフス、コレラ、マラリア、梅毒、ジフテリア、インフルエンザ、HIV/エイズ、鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、そして新型コロナウイルス感染症など。日本赤十字社は罹患者の治療とともに、予防対策にも力を入れてきました。

日赤が最初に感染症の治療と予防に取り組んだのは、前身の博愛社が活動を開始した、西南戦争(1877年)の救護所でした。日赤の歴史は、感染症との闘いと言っても過言ではありません。

注

(1)重症急性性呼吸器症候群、(2)中東呼吸器症候群

※ 本紙作成にあたっては、日本赤十字社HP赤十字WEBミュージアムの画像を抽出して使用しています。またテキストはそのページを参照しています。

皆さんお元気ですか 最近の近況報告です

北見赤十字病院 名誉院長 特別顧問
北見医師会 会長
吉田 茂夫

新型コロナウイルス感染症のため、皆様とお会いできませんが、今回このような原稿依頼が逢坂会長様からあり、ご挨拶と最近の近況をご報告させていただきます。

いつも職員や研修医の為に、愛情あるご厚意をいただいておりますことを感謝申し上げます。私自身は、院長職を退きましたが、病院のご配慮により特別顧問として、内科外来や緩和病棟の患者さんにかかわらせていただいております。院長時代の病院財政や医師確保などの重荷から解放され、ずいぶんと楽になりました。また、縁がありま

して、北見医師会会長として、管内の医療問題にも携わらせていただいております。紙面の都合もあり、北見地域の現代的な問題である、
①新型コロナウイルス感染症対応について
②医師会としてのウクライナ戦争対応
③北網二次医療圏の将来構想である地域医療構想の3点について書かせていただきます。

は北見赤十字病院、道立北見病院、網走・遠軽厚生病院、広域紋別病院と置戸、小清水の赤十字病院、更に管内の診療所等の医療機関が連携・協力しながら、保健所や各市町村、そして医師や看護師などの医療関係職の並々ならないご努力によってコロナ感染者の対応にあたっております。幸い、医療崩壊を起こすことなく、何とか医療体制を維持できているのは、皆様の感染予防対策に加えて、こ

うした医療機関や行政などの方々のご努力によるもので、改めて敬意と感謝申し上げます。
医療先進国と思われていたアメリカにおいてコロナ感染による死者は100万人を超え、そして25万人の子供たちが親や養育者を失っております。アメリカ人研究者から、同じ市内でも、居住する地域での貧富の差で死亡率に有意な差を認め、貧困地域の無保険者が早期に医療機関にかかることが



出来ない医療格差問題があると報告されておりあります。幸い我が国では「国民皆保険制度」により国民がいつでも、等しく医療が受けられます。北見医師会としては会員の協力により、北見市PCR検査センターの立ち上げや、ワクチン接種に努めてきました。スピーディーに接種が進められ、特に高齢者の施設入所者や人工透析患者さんへのワクチン接種を速やかにすることができ、死者数を抑えられたものと思っております。他方現在、経済活動の活発化に伴って、感染者数が高止まりしており、今後「三密」対応は必要であるかと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

事侵攻をし、世界中を驚かせました。北見医師会では、「ロシアのウクライナからの撤退、子供たちへの攻撃」に対する批判決議をいたしました。丁度、日本医師会としても同様な決議を、同時期に行っていましたので、北海道医師会に私たちの決議文を手渡し、併せて寄付金を日本医師会に送金致しました。これらの寄付金は医薬品・医療物資として必要な地域に送られているとのこと。一日でも早く戦争が終わることを願っております。

あります。しかし、現在の国家財政下では、医療提供体制をこのまま維持することは困難であるとされております。そこで、国は必要な医療体制の構築に向けて各地域で議論をするよう、地域医療構想調整会議を二次医療圏ごとに設置しました。医師会としては、現在の医療提供体制が将来も続くよう、良い議論をしたいと思っております。今後関係機関の方々と連携して取り組んでいきますが、地域の方々の理解なしには進めることはできませんので、今後とも、支援する会の皆様方にはご協力をお願いいたします。皆さんと一緒に良い地域づくりができれば嬉しい限りです。最後まで読んでいただき感謝いたします。

こうした中、ロシアがウクライナに軍

北見医師会への対応

将来の北網地域での地域医療構想について

我が国が人口減少社会となり、北見市も将来10万人を切る事が推定されています。

我が国の国民皆保険制度は日本の宝です。